明治廿九年九月卅日印刷
明治廿九年十月二日發行

婦人衛生雜誌

第八十三號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生雜誌
第八拾三號
目次

講演

●小兒の衛生に就て　醫學博士　弘田長君

衛生叢談

●洪水後衛生法の通達
●水災後衛生上の注意
●傳染病患者の職業別
●英佛死亡者の比較
●鮒の中毒
●赤痢の害毒
●同個人的豫防法
●本年の死亡者
●神奈川縣下の赤痢
●長野縣下の赤痢
●府下赤痢患者
●埼玉縣下の赤痢病
●靜岡縣の赤痢病
●廣告數件

大日本婦人衛生雜誌
第八拾貳號
目次

講演

●阿片に就て（前號續き）　醫學士　高田耕安君
●衛生と迷信　醫學士　山根正次君
●新潟支會に於る高橋氏の講演
●種痘法發明者善那氏頌德の記

衛生叢談

●マンチエスター婦人衛生會
●新潟支會記事
●内務大臣の訓令
●赤痢病
●人壽の統計
●全世界の死亡及出產數
●本年虎列刺病なき原因
●學齡未滿の兒童の就學禁令
●寄贈書目
●廣告數件

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌第八拾三號
（明治二十九年十月二日發行）

講演

●小兒の衛生に就て

醫學博士 弘田長君演說
佃速記事務所員 速記

私は小兒のことに就て少し御話を仕やうと思ひます、元來先月幹事さんと御約束を致し、ソレで先月の御會に演說を致す筈でありましたが、已むを得ざる事で六月に延期を願ひまして遠くへ旅行を致しました、そして歸ると直ぐに出席するやうにと云ふことでありましたので御座います。ソレで私は申上げやうと思ひました事も二三ケ條は有りましたけれどもまだドレを申上げて宜いやら充分なる取調を致す間もなく今日出席する樣に相成まして申譯もなき事ですが、本日は只御約束の責を塞ぐのみの事より出來ません然るに斯く永く御待たせ申しましたのは甚だ御迷惑を懸けたやうな譯で恐縮の至で御座います。

小兒の衛生に就ては是れまで度々諸大家より御話がございまして、或は重復に渉るかも知れませぬが、今日私の述ぶるのは小兒が乳を離るゝ時分のことに就て鳥渡申上げやうと思ひます。乳を飲んで居りまする中の事は、是れまで屢々他の人々も述べられた樣に心得ますが、乳を離るゝ時分、即ち生後八九ケ月より、凡そ誕生近くなりました時分の小兒の養生に就て、大體の御話を申上げやうと思ひます。

小兒の衛生に就て

ソレで小兒が七ヶ月或は八ヶ月位ゐにありますると、ソレまでは母親の乳ばかり飮んで居ッたものが、傍らで食事を成さることなどを御覧になるとソレを大變に欲しいと云ふ慾が出て來る、ソレが凡そ半年少し超ました頃から盛になりまして、已に八九ヶ月にあると、齒も生えまする故、咀嚼の作用も出でまして益々他の食物が欲しくある時期に達します。此時期に到りまする と、小兒の方では貰ひたいが山々、左も無くても慈愛深き御兩親は遣りたいが性質で遂に食べさせ過ぎると云ふ樣な事が往々生ずるので有ります。ソレで小兒の疾病も此時期に割合に多くなッて來る、殊に腸胃の病氣が多くなッて參るので有ります。仍て私は其年齡に至りました時分にはドウ云ふ方法が、穩當正當で有るかと云ふ事を申上ぐるので有ります其方法を講じまするに就ては、乳を離るゝ時期、ソレからソレに就てはドウ云ふ樣な時に離す方が宜いかと云ふ乳離れの季節と時期、又其ときにはドウ云ふ食物を遣るが宜いかの三點に分けて申上げませうと思ひます。

乳を離す時期は、小兒が何ヶ月に成長すれば實行して宜いか、又之を離すには突然離しても宜いかと云ふことを最初に申上げます。乳を離す時期に就きましては、日本と歐羅巴とは大分異ッて居るのであります。日本でありまする と、現今は大分社會に衛生上の思想が養成されて來ましたから、昔のやうでは有りませぬが、然し未だ日本の多數の狀態はドウかと云ふに、昔の習慣が充分に存してあります。其習慣とはドウ云ふ事かと云ふに、大概小兒三四歲位ゐまで乳を飮んで居るのが

通例、殊に地方の状態などは、隨分永く乳を飲ませるやうに見受けられる又日本の古い書物などには、次の子の出來るまで乳を飲ませると云ふやうにあッて居る。つまり日本人の乳を飲ませる時期は餘程延びて居る、獨地方のみならず東京でも誕生に乳を止めると云ふことは殆ど無い、一年半二誕生位ゐまで大抵乳を御飲ませになる、ソレが先づ日本の一般の風と心得て宜からうと思ふ。然らば歐羅巴の風はドウ云ふ工合かといふに、是れも地方に因ッて少し宛の差は有りますが、例之ば英吉利の北の方の「アイスランド」(一小島國)此島では大概小兒に乳を飲ませますのが八日間、即ち七夜頃までゝあるのです、小兒に乳を飲ませますのは、先づ母親が褥に就て居る間でおつかさんがソロ〳〵褥を離れて働く位ゐには授乳を止めて仕舞ふ甚だ短いやうでありますが、「アイスランド」の風は八日が普通で、少し永いのが二週間と云ふやうになッて是る、是れが世界中で一番短い飲ませ方のやうであります。何れの邦にも多少いろ〳〵の習慣が有るが、ソレを調べて見まするのに「アイスランド」の如き短き習慣のある國は盖し他にありませぬ。其外自分の乳を飲ませない習慣の所も有りますが、ソレはまた別で有ります、其外は「エスキモー」露西亞の北の方の彼の有名なる背の低い人間……露西亞北部の「エスキモー」人種の習慣は日本と能く似て居る、輙ち三四歳まで母親の乳を以て育てゝ居る、同じ寒帶の地でも「アイスランド」と「エスキモー」は授乳長短の差はかくの如く甚だしい。「エスキモー」と「アイスランド」はさほど遠く離れて居らぬ。北海道と日本の內地

の如くであるが、ソレで大へんに習慣が異ッて居ります、サウ云ふ工合に歐羅巴の北部の中でも大へんにちがつて居るのであります。

ソレから歐羅巴の中でも文明に進んで居る處ではドウ云ふ工合かと云ふに是れ以て非常の不同、獨逸露西亞英吉利邊も皆ソレ〴〵異ッて居る。同じ獨逸の中でも南北相異ッて居る。ソレで歐羅巴の文明に進んで居る處では、凡そ一ヶ月位ゐ飲ませるのが多いやうであります。則ち日本で所謂お宮參り比まで乳を飲ませるのが多い。獨逸の「バイエルン」州と云ふ處は餘程「アイスランド」の風に似て居る。ソレは習慣と申すより寧ろ必要上より起ッて居る。母親が産後肥立ちますると、直ぐに田畑の方に出て働かなければならないので、業務上ドウしても小兒を手づから育つることは出來ぬ故、早くより乳を離す習慣を付けて自分は野に出て業を取り、後に留守をして居るものに、小兒の養育方を托すると云ふ風習で、其邊は大抵牛乳を以て育てます。なほ南亞米利加北亞米利加等の風を數へまするど、際限の無いことですが、つまり國々に由ッて違う、而していづれに利益が有るか弊害が有るかと云ふに、極端と極端の話故双方多少の利害は有るが、先づ利益はいづれの方にあるかと云ふに、長く飲ました方が宜い。「アイスランド」の如きは甚だしきは八十ペルセントの死亡、百人の中八十名は死んで仕舞う、勿論是れは極く烈しい統計表でありますが、實際極端にあると、斯樣の現象を呈するのであります、歐羅巴は一ヶ月で母乳をやめて仕舞うのですが、その小兒死亡數は、二十五から四十五ペルセント、百人の中二

十五名から四十五名は死んで仕舞ふ、甚だしきは五十一ペルセントの死亡、左樣に死亡數が多いのであります、ソレから永く乳を飮ませる方、即ち三四歲まで授乳する方は、大概九から十六ペルセント、百人の中九人乃至十六人の死亡で有りますかくの如く非常に衛生上に關係を有するのでありますソレ等から見ると、ドウしても乳を永く飮ませる方が、小兒の生存上に利益が有るに相違ない。以上はソレ〳〵土地の習慣を申上げたのでありますが、今文明國で衛生の行届きたる處の人の行ふところはドウ云ふ工合になつて居るかと云ふに、醫師の方から充分の注意を與へて、ソレを實行せられて居る部分が、歐羅巴に於ては大概十一ヶ月前後と御承知になッて誤りはない。乳汁のみを授けるのは凡そ十一ヶ月前後にして、而して其後は徐々と他の食物になす、是れが我々の標準として宜いのである、けれども十一ヶ月で乳をやめると云ふことは、私も自分の家の小兒に就て斷行しやうと思ひますが小兒が泣くとか、なんとかいろ〳〵故障が出るので、ドウしても長延やうになッて仕舞ふ。十一ヶ月で母乳を全くやめると云ふことは、世間一般の風が爾う云ふ風に赴かむでは、とても實行は出來むだらうと思ひます。けれども或は母親の乳と牛乳との二種を以て育てゝ居らるゝ御方もあるのですから、サウ云ふ工合にして御在になれば、十一ヶ月若くは十二ヶ月位ゐで止めることが出來ないと云ふことも無からうと思ひます。母親の乳を飮ませながら牛乳を飮ませるのは出來るだらうと思ふけれども單に十一ヶ月で斷然止めさせることは餘程困難のやうに見受け

ます。

愈々母の乳をやめさせると云ふことにあれば、第二の食物に最も注意を要する時期になッて來る、此時が兎角仕損じをすることが多いので、極めて注意を要するので有ります。隨分永く御子さんを養育なされた塲合に、乳をおやめにあると、多少おつかさんの御身体に自由が利きまして、從ッて御子さんと一所に御在にあることが減ッて來る、傍らに在ッて注意をすると云ふ時間が短くなります故、自然失策も多くある譯……此等は母たるものゝ深く注意すべき處です。ソレで先刻申す通り乳を離すのは十二月前後が好時期ゆゑ、此比に母乳の外の物を食べさせるには、牛乳から徐々と始むるのが宜い、突然乳をやめて外の物を食べさせると云ふのは不利益で有ります。併ながら其時分から漸く腸胃を他の食物に慣れしむるのが必要であるのです、之を慣れしむるには多少腸胃に故障が起るであらう、假令起らんまでも起りはせむかと云ふ疑ひのあるもの故、此時期が丁度現今即ち五六月の時季でありましたならば、少し遲れても秋北風の吹く頃まで延期した方が宜い。若しも時期などに頓着せず七月でも八月でもモウ大概十一ケ月にあッたから乳はやめやうと、御子さんのからだにはさし構はず定め通りに實行するとトンダことになります、ソレが先づ季節に就て申しますると、普通の天則のやうにあッて居ります。處がこれに就ても國々に習慣があッて、隨分只今申した事に矛楯した例も有ります。例之ば獨逸の一地方から露西亞の方では、雪の無い時分に乳をやめるとからだが丈夫になると云ふ、而して醫師の方

では延期なすッたら宜からうと云ふ時分即夏に乳を離す習慣である。又或所では渡鳥が動かなくなッたとき、則ち雁の來たとか歸ッたときとか云ふ時でなくては往けない、小兒の口腹には一向構はむで、雁の往來をして居るときは往けないとしてある、是れは丁度咒術みたやうな更に理窟の無い事であります。又薔薇花の開いてある頃でなければ往けないと云ふ風習もある、是れは花の開いた時分に乳を止めると顏が薔薇のやうな美しき色になると云ふ樣な點から來たので有りませう。又或は滿月、十五夜か、或は月の滿ちて往く間に乳をやめなければならないと云ふやうな處もある朔日より十五日までの最初の半分の中にしなければならないと云ふのです。又乳を離す時分に、最終の哺乳は寺院でしなければならむ、サツすると小兒に幸福が授かると云ッて居る。畢竟學問外の例を申すと種々樣々であッて、歐羅巴も日本も同じやうな事を言ふのであります、かくの如く諸國の習慣から申すと、薔薇の花の咲くころと雪の降らぬときとはまるで時節が違ッて居ります、斯う云ふやうな慣習は日本にも必ず澤山に有らうと思ふ、サウ云ふ習慣は衛生上に關係の無い限りはいづれを取ッても構ひませぬが、つまり成るべく物の腐敗せざるとき、最も腸胃の壯健なる時を利用しなければならない、ソレ故夏季六七月より九月比までは乳を離すことはせむ方が宜い。

ソレから乳を離した時分に食べまする物は、ドンナ物を食べたら宜いかと云ふに、「チストル」氏の小兒粉(スイフッル製)と云ふものがあります、これは「ビスケット」の樣な味、之を凡ろ咖啡の匂子

に一杯を十杯のお湯にて溶かし立て用ふるのです此小兒粉のうちには牛乳豆の粉、鳩麥も這入ッて居ります。(實物を示さる)ソレから牛乳ソップ鷄卵等は第一に試用すべき食物です、牛乳は御承知の通り砂糖を少し入れて一度沸騰させれば宜い。ソレから是れは「リービヒ、キ」粉と申して（實物に就て）豆が大變に這入ッて居ッて生では往けませぬ、煮ると大へんに味が好い、丁度豌豆を粉にして味を附けたやうなものです。「子ストル」氏の小兒粉は、ドウか皆様が御味ひなすッて戴きたいので有ります、此二品は粥を用ふるやうなときに食べるので有ります、此外にも小兒の食べまするものは非常に澤山にある、國々にいろ〳〵の物がありますが、日本には淺田宗伯氏の乳の粉を始めとして、「ヘルス」其外寶丹の乳知らずと云ふやうに種々雜多の物が出來て居るが、其の良否は私は知らぬ。只今御目に懸けたものは歐羅巴でも特に人にも知られ世間から稱揚せられて居るもので是れなれば間違ひはないので有ります。それで乳離れの當時に小兒の用ふる食物は、ソップ牛乳鷄卵であると御考へになれば左程に誤りはない。其後サウ云ふものに慣れて、前の上下四枚の齒が出て臼齒が出て來ましたならば肉類も食して宜いので其上は一々食物の種類を申さないでも、總てに御注意になれば宜いので、別段危險と云ふことは無いのです。只大切なるは乳離れの時隨分田舍などに往くと、此時期に危險の事をして居ります。其一例を申せば東京にては子供の通じが宜しくなると云てさつまゐもをかまわずにたべさす事が間〳〵ありまして却て下痢となる事が度々あります。

已に最初に御わび致しましたる通り今日私の出席は餘り突然の事にて申上る事も餘り簡短に過ぎ御氣毒でありますから序でに今日は實は甚だ失禮とは心得ましたなれど止を得ず持ッて來ました物があります、御目にかけるのは如何と思ひますがつまり食物は充分に注意をして利益になるものを用ひなければ往けない、小兒の如きは腸胃が弱い故、不消化物や腐敗に傾きかゝッて居るものを食べると直ぐに下痢を起し吐氣を催します故直ちに解りますが、大人老人は少しくらゐ不消化のものを食しても、腸も胃も惡くならずして、少しも目に見ゑないが、不消化のものはドの位ゐ害が有ると云ふ事を知るのはその、大便を御覽になると能く解る、乃ち今御目に懸けやうと云ふのは、大便を濾つて充分に淨めて中の不消化物だけを「アルコール」に漬けたので有ります。之を御覽になりますと、不消化のものはいくら食べても利益はないと云ふことが一目亮然解ります、即ち麥飯、茄子の蔕、大根、麥の皮、茄子はかくの如く有の儘で便中に出でまする、茄子大根は無論漬物で、之を觀ますると食物は擇ばなければならぬことが解ります、デ是れは一時間御談話をするよりは、寧ろ御實見がはやいと思ひまして之を持ッて參りました譯でございます。

衛生叢談

◎洪水後衛生法の通達

久我東京府知事は過日北豐島、南足立、荏原、南葛飾の四郡長及び本所區長へ左の通達を爲したり

一河水漲溢の爲め泥水の流入したる井戸は速に浚渫をなし井側等を能く洗滌すべし

一井戸浚を爲したる後と雖も當分は必ず煮て飲用すべし

一浸水の家屋に在ては床板を剝して之を洗滌し其床下に溜まりたる水は之を掘出し泥土を掻き取りたる上生石灰を粉にして撒布して乾すべし

　但凹凸のヶ所は尙ほ乾砂を塡充する事

一壁柱其他水に浸されたる部分は石炭酸水又は石灰乳（生石灰一合を水二升に溶かしたるもの）を布に浸して充分に拭ふべし

一家屋内の洗拭了らば窓戸を殘らず明開き大氣の流通を促し又は火力を借りて乾すべし

一濕潤の疊建具類は成るべく日光に曬らし乾燥すべし

一各家内にある浸水の便所は掃除し糞池の內外に生石灰又は石灰乳を撒布すべし

◎水災後衛生上の注意

（大日本私立衛生會雜誌拔萃）

一（前略）洪水は即ち前にも述べたるが如く汚物の混淆したる惡水なれば屋傍の地面又は溝渠等の殘溜水は速に疏通せしめ而して先づ第一に其沈澱したる汚泥塵芥を掻き取るべし

一洪水の折には殊に飲料水の不自由あるものあれは井戸浚へは第一に手を着くる事ならんが其浚へ方は先づ近傍に在る不潔の塲所を掃除し然る後に井戸浚ひに取掛るべし

一井戸水は之を浚へたる後と雖も能く澄みて臭なく又不快の味なきに至りて飲用とするは勿論當

分は必ず煮て之を用ふべし決して生水を飲む可からず

一壁柱其他水に浸されたる部分は石炭酸水又は石灰乳（生石灰一合を水二升の割合て溶したるもの）を布に浸して十分に拭ひ床下の汚泥は之を掻取りたる上へ生石灰を粉として撒布すべし水に浸されざる部分と雖も清水又は湯を以て洗滌すべし特に居間庖厨及日用の道具抔は丁寧に洗滌すべし

一家の洗拭了らは窓戸を殘らず明開き專ら大氣の流通を促がし又は火力を借りて乾かすことを務むべし併し總て一應清水を以て洗ひ又石灰乳にて消毒するを要す床下は殊更注意して乾すべし

一床板は一應之を剝して洗ひ又消毒を爲し壁も粗塗のものは塗替るを可とす其床板を剝したるときは麥藁抔所在塵芥等を集めて火に燒くべし斯くすれば一面には家を乾し一面には他の塵芥をも一同に燒き盡すの便益あり

一床下に溜りたる水は現に不潔物を認めざるも凡て有害のものなれば必ず床板を剝して之を汲出し其後の泥土は掻き取りたる上生石灰を撒布し之を乾すことを怠るべからず

以上の清潔法乾燥法等を行ふに非ざれば水の退きたる後直に其家屋に起臥すべからず其再び被むる所の災害は一個月又は二個月と追々日を經て現はれ來るものなれば家屋敷の掃除も行届き濕氣の全く除きたるを待て歸住すべし人情速に我家に歸りたきものなれども其忍び難き情を忍び不自由ながらも假小屋に在りて十分安心と認むる時を待つべし其假小屋に在る間の心得方を左に示す

一假小屋に在る時は可成多人數同宿すべからず

一敷物を厚くし濕氣の身躰に及ばざる樣になすべし

一濕潤したる衣服夜具は決して用ふべからず

一傳染病者の生じたるときは速に其病人を別所に移し健康人と同宿せしむ可らず

又已むを得ざる場合に際し假小屋に住むこと能はずして水の退きたる後直に其住宅に歸住するときは次の數項に注意すべし

一各人の養生に注意すること流行病ある時の如く身躰を温包し温暖なる飲食を用ゆべし

一時々火を焚きて室内を乾し又窓戸を開きて大氣を流通せしむべし就寝の前に於ては別して必要とす

一箪笥戸棚其他屋内の道具は壁際より一尺許も離し置き濕氣の蒸散を妨げざる樣にすべし殊に食物を貯ふる器物は速に乾燥せしむべし

◉傳染病患者の職業別

内務省衛生局に於て數年間の事實により算出したる處に據れば虎列剌、腸窒扶斯、赤痢、實布垤里亞、發疹窒扶斯等の各傳染病は、吾國にては割合上農業者に多き由にて特に昨今各地方に切りに流行する赤痢の如きは百分の八十迄は農業者に限れりと云ふ其原因は吾國の農業者は未だ衛生思想の發達特に幼稚にして生水生物等を飲食すること殆んど習慣となり居るのみならず赤痢流行の近因として清水を用ゐずして溪流を其儘に飲料に供するより格段に其災を蒙るなりと云ふ今各傳染病 患者 職業別百分比例を擧ぐれば左の如し

職業	虎列剌	赤痢	腸窒扶斯	實扶垤里亞	發疹窒扶斯	合計
農業	四五、二三	八〇、九九	五八、七一	五三、七五	五七、四三	四九、九〇
諸業	二〇、四八	八、七六	一四、四九	一八、六二	一四、五七	一八、六九
商業	三、〇五	四、六八	一〇、三三	一五、二四	九、六一	一三、〇九
職工	五、九九	一、九四	四、八三	五、二九	五、一八	六、三三
職業不詳	六、四六	一、九九	五、三一	三、〇三	〇、五七	五、八九
船乘	三、九七	〇、五〇	〇、八八	〇、一八	一、一四	三、一三
力役	二、八一	〇、五一	一、八三	二、二三	二、三三	一、八〇
罪囚	〇、五〇	〇、三〇	二、〇一	〇、一七	六、一八	〇、八二
官吏	〇、七三	〇、一三	〇、八八	〇、七四	二、〇三	〇、七四
僧侶	〇、一三	〇、一四	〇、三六	〇、四五	〇、三三	〇、二三
醫師	〇、一四	〇、一四	〇、三〇	〇、三一	〇、二五	〇、二五
坑夫	〇、一三	〇、〇三	〇、〇八	…	〇、〇九	〇、一八
總計	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇

●英佛死亡者の比較

佛國にては法律を以て結婚を制限すると衛生法宜しきを得ざるとの爲めにや人口增加の比例極めて少なく五年間に於て纔に十三万四千人に過ぎざれば一年間の平均二万二千八百人の割合なり佛國の國土民口に比して其增加實に稀れなりと謂ふべし之に反して英國は醫術の進歩と衛生の法宜しきを得たるに依り大に死亡者の數を減じ千八百八十一年には千人中二十一人三の比例なるに千八百九十三年には十九人の比例となれり同日に生壽も大に延長し平均男子は四十一歲二より四十三歲六に至り女子は四十四歲六より四十七歲二に至りしが只だ寒心すべきは製造業盛なる地方に於ては幼者及少年に死亡の多き一事なりと云ふ工業の大に起らんとする我邦の如きは大に着目すべき事實なり

●鮒の中毒

とは餘り耳にせざるとなるが此頃三人の下卑職鼎座にあつて鮒の刺身を下物に飲食せしに三人共忽ちに腹痛を覺え苦悶數刻の後遂々二人は黃泉の客

一人は百方治療の末漸く快癒したりと云ふ之は鮒の腹中に在る黑點の中毒にして生洲などに飼養したるものは往々此黑點ありて中毒することありと注意すべきことなり

◉赤痢の害毒

虎列剌の性質劇烈なるか故人大に之を恐るも赤痢に至りては然らざるものゝ如し其害毒を逞しうすること遙かに虎列剌の上にあり而して赤痢は常に患者の多きのみならず其病の經過長きか故に從て職業を廢する等其費用極めて大なり虎列剌は廿二年より二十八年までに患者十一万五千八十九人死者八万四千六百六十六人なるも赤痢は同年間に五十五万七千八百五十一人内死者十三万五千五十七人の如きに達せり玆を以ても其虎列剌に勝るを知るべし而して流行の季節は第一秋期第二冬期第三夏期第四春と云ふ順序にして秋期最も甚だしといふ

◉同個人的豫防法

赤痢は消食器より來るが故に病毒を防ぐには一に飲食物に注意するにあり即ち一切の生水一切の生物を飲食せざれは決して感染することなし是れ甚だ單簡なる事なり是丈の禁を守り得ずして百年の生命を棄るは實に嘆ずべきなり

◉本年の死亡者

本年は氣候不順なりし故か赤痢は勢を逞うし續々死者を出すと共に窒扶斯性の患者を出し暑氣炎熱なるに當りては肺病脚氣胸膜炎に罹りて斃るゝもの多しと

編者小兒又胸膜炎に罹り本月遂に死去す經過五ヶ餘日近鄉倘二三の同患者あり今火葬場にて聞く處

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

によれは本年は若き女の肺病及小兒の胸膜炎脚氣等の死者多く今よりは又赤痢の爲めに死する者多からんと云ふ

◉神奈川縣下の赤痢

同縣下の赤痢は過般來各郡に蔓延し就中高座郡最も流行を極めつゝあるか近頃新患者六十七人死亡十三人治癒九十一人初發以來の累計患者九百五十二人死亡百五十三人治癒六百十一人治療中百八十八人尤も同縣都筑郡中里村柿生村都岡村等昨今追々流行の兆あるに付是れが豫防に盡力中なりと云ふ

◉長野縣赤痢

同縣下に於ける去月一日より同十五日迄の赤痢患者及死者は患者總計千四百八十四人内死亡二百八十六人なりといふ

◉府下赤痢患者

去る二十四日屆出の赤痢患者は神田區男一人、小石川區女一人、北豐島郡男二人、南多摩郡男二人女七人、西多摩郡男三人女二人、北多摩郡女一人計十九人

◉埼玉縣下の赤痢病

同縣下の赤痢病は去月廿五日屆出の分北足立入間比企秩父兒玉大里北埼玉北葛飾の各郡にては有病町村百三十三、患者三十三、死者十九

◉靜岡縣の赤痢病

同縣下の赤痢病は賀茂田方富士榛原磐田濱名の各郡にて有病町村數十四、患者二十八、死亡十其他全國殆んど流行せさる處なきに至らんとす注意緊要

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

廣告

◉事務所へ申込に依り

本郷金助町四十四番地　萩谷まさ子
下谷車坂町百七番地　築山かう子
神田區猿樂町二番地　畑谷よね子

◉千葉支會へ申込に依り

千葉市場町　松本るし子
仝旭町　田中まさを子
仝仝町　渡邊靜子
仝通新町　宮川しあ子
千葉師範學校女子部　岩上りう子
千葉市旭町　峯島てい子
仝仝町　大野くめ子
仝仝町　梅若もと子
仝仝町　市村まさ子

◉穗積松子の紹介に依り

麹町區永田町二丁目拾八番地　白石萬子

◉千種はる子の紹介に依り

日本赤十字社　立見錠子

◉新潟支會へ申込みに依り

新潟市旭町一番町字宮浦五十七番戸　時任しづ子

轉居

赤坂仲の町十八番地へ　鈴木てる子
赤坂檜町十四番地へ　志岐榮子
芝伊皿子町へ　伊藤梅子
南豊島郡千駄ヶ谷村へ　大山捨松子
麻布材木町へ　板垣きぬ子
牛込南山伏町十五番地黑澤方へ　佐藤とめ子
麹町永田町二丁目五番地へ　山田登利子
廣島縣江田島海軍兵學校官舍内第五號へ　石田竹子
麻布區芝森元町三丁目廿三番地へ　宮城島欽子
福岡縣豊前國企救郡小倉魚町一丁目二十番地へ　丘邑喜代子

◉正誤

第八十一號廣告欄中赤坂區喜島つせ子と有るは喜多山つせ子の誤り

一金五拾錢　森やそ子

右は第八十一號に掲載すべきの處脱漏致し候に付き茲に紹介す

◎大日本婦人衛生會會員宿所姓名

總裁　小松宮彰仁親王妃頼子殿下

會長　子爵夫人　仁禮壽賀子
副會長　濱尾作子
幹事　鳩山春子
仝　西　靜子
仝　高木鏻子
仝　北澤信子
仝　穗積歌子
仝　三浦敎子
仝　宮下咲子
評議員　濱田捨子
仝　加藤常子
仝　中濱芳子
仝　緒方悦子
仝　木内磯路子
仝　宮本樂子
仝　三井晴子
仝　松平芳子
仝　男爵夫人　南部隈子
仝　西　升子
仝　坪井國子
仝　丹波貞子
仝　加藤鈴子
仝　岡田德子
仝　馬渡玉子
仝　上野幾子
仝　中橋悦子
仝　羽田三緒子
仝　伯爵夫人　小笠原純子
仝　男爵夫人　岩崎早苗子

◎府下終身會員

本郷湯島三組町八十六番地　石崎つる子
小石川金富町三十三番地　濱尾作子
仝音羽町七丁目十番地　鳩山春子
京橋築地三丁目四番地　男爵夫人　花房千鶴子

神田駿河臺北甲賀町四番地　西邑せつ子
京橋三十間堀三丁目十七番地　西　升子
麻布市兵衛町一丁目五番地　田中とら子
仝竹屋町六番地　高平清子
麴町中六番町三十六番地　高木くら子
本郷弓町二丁目二十番地　丹波貞子
小石川水道端二丁目四十一番地　子爵夫人　田中すま子
京橋西紺屋町十番地　高木富子
麴町區飯田町三丁目廿六番地　三井拾子
京橋因幡町七番地　宮下咲子
麴町一番町一番地　伯爵夫人　土方龜子
仝永田町一丁目　森　寛子

◎府下特別會員

麴町三番町三十三番地　飯田たつ子
芝三光町七十五番地　林　操子
小石川原町百二十九番地　長谷川仲子
芝三田綱町十番地　子爵夫人　仁禮壽賀子
仝小山町一番地一號　遠武かと子
本郷西片町十番地　岡田德子

麴町上二番町四十四番地　加藤鈴子
仝五番町十四番地　加藤常子
本郷田町二十八番地　加藤秀子
小石川茗荷谷町三十三番地　片山龜子
神田駿河臺鈴木町二十二番地　加藤春路子
麻布霞町二番地　金子彌壽子
麴町區下二番町四十一番地　吉武輝枝子
日本橋元大工町九番地　高橋瑞子
京橋南金六町九番地　田中みちへ子
麴町上二番町二十五番地　公爵夫人　鷹司順子
赤坂北町六丁目四十七番地　多久ちゑ子
小石川茗荷谷五十六番地　曾彌しん子
麴町有樂町三丁目一番町　圖師さ代子
牛込下宮比町二番地　中橋悦子
麴町五番町十四番地　野崎陸子
四谷鮫橋五十八番地　伯爵夫人　松平充子
麻布飯倉片町三十一番地　兒玉志那子
麴町平河町六丁目　葦原のぶ子
神田北甲賀町十四番地　子爵夫人　秋元宗子
下谷上野花園町十一番地　男爵夫人　赤松貞子

本郷西片町十番地　榊　幸子
京橋弓町四番地　塩澤よし子
下谷西町三番地　海老原つる子

◎府下賛成員

麴町永田町一丁目十七番地　伊東方成君
牛込揚場町十七番地　男爵　石黒忠悳君
神田駿河臺北甲賀町十番地
醫學博士　濱田玄達君
小石川金富町三十三番地　濱尾　新君
仝音羽七町目十番地
終身會員　法學博士　鳩山和夫君
赤坂新町三丁目十四番地　萩原彌四郎君
京橋三十間堀三丁目十七番地　西　周君
本郷東片町百十六番地　醫學博士　緒方正規君
仝東片町百三十一番地　醫學博士　大澤謙二君
日本橋小傳馬町三丁目　大竹茂吉君
本郷西片町十番地　岡田和一郎君
麴町上二番町四十四番地　文學博士　加藤弘之君
仝五番町十四番地　加藤照麿君
仝飯田町六丁目　醫學博士　樫村清德君

神田小川町五十一番地　賀古鶴所君
小石川指ヶ谷町盲啞學校　吉川金造君
京橋西紺屋町十番地　醫學博士　高木兼寛君
芝伊皿子町七十五番地　高山紀齋君
麴町永田町二丁目廿八番地　男爵　高崎正風君
神田鈴木町二番地　高田耕安君
本郷弓町二丁目十四番地　辻　新二君
本郷西片町十三番地ろの三號　醫學博士　坪井次郎君
麻布本村町四十七番地　男爵　南部甕男君
仝宮村町六十七番地　長與專齋君
下谷天王寺町三十二番地　醫學博士　中濱東一郎君
赤坂青山南町七丁目三番地
理學博士　長井長義君
麴町下六番町五十二番地　馬屋原　彰君
仝上二番町四十四番地　八木吉六君
神田柳原町一番地　山本幸藏君
芝三田二丁目十四番地　松山棟菴君
麻布東町二十四番地　後藤新平君
日本橋蠣殼町二丁目十七番地　小林延之助君
本郷眞砂町二十八番地　足立　寛君

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

神田駿河臺北甲賀町十一番地　子爵　秋元興朝君
本鄉西片町十番地　醫學博士　榊　俶君
神田駿河臺北甲賀町十番地　醫學博士　佐々木政吉君
仝猿樂町二十五番地　醫學博士　佐藤三吉君
日本橋濱町三丁目一番地　齋藤澤吉君
品川大横町　齋藤清文君
日本橋葭町　佐竹勝兵衛君
本鄉元町二丁目四十七番地　岸田松二郎君
神田雉子町三十番地　宮本　仲君
麴町有樂町三丁目一番地　水崎佑保君
京橋因幡町七番地　宮下俊吉君
小石川竹早町六十二番地　醫學博士　三宅　秀君
京橋南鍋町一丁目七番地　三島通良君
麴町飯田町四丁目十六番地醫學博士　弘田　長君
赤坂青山南町五丁目五十番地　本尾敬三郎君
四谷坂町一番地　鈴木宗玄君

◎府下通常會員

い　ノ　部

麴町二番町三十一番地　井上ひつ子
仝紀尾井町六番地　石川さだ子
仝元園町一丁目二十七番地　巖谷もと子
仝一丁目十一番地　市尾はつ子
仝元平河町三番地　今村いと子
仝永田町一丁目十七番地　男爵夫人　伊藤八重子
仝一丁目十七番地　伊東雪子
芝伊皿子町　侯爵夫人　伊藤梅子
麻布材木町　伯爵夫人　板垣きぬ子
神田三崎町三丁目一番地　伊藤喜美榮子
仝南神保町十七番地　一井てい子
仝北甲賀町九番地　池田きね子
仝東紅梅町十七番地　男爵夫人　岩崎早苗子
仝錦町三丁目二番地　市原いち子
仝淡路町二丁目四番地　井野うち子
日本橋濱町二丁目九番地　石堂みち子
京橋桶町二十六番地　石崎ひさ子
仝瀧山町十番地　石川さた子
仝築地三丁目八番地　池田よね子
芝木挽町一丁目十一番地　飯島つる子
芝田町四丁目七番地　磯部そよ子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

廣告

仝田町七丁目六番地　今村家壽子
仝高輪車町三十八番地　子爵夫人　伊東ちせ子
仝櫻川町十四番地　岩野幾世子
仝新門前町三番地二號　伊藤ゑい子
仝葺手町廿六番地　石井ふみ子
麻布笄町百四十八番地　岩橋とき子
仝本村町　伯爵夫人　井上武子
仝三河臺町廿九番地　石河里子
仝一本松町二十三番地　今井幸子
仝山本町三十三番地　伊集院とよ子
仝廣尾町三十三番地　井上光子
赤坂福吉町二番地　公爵夫人　一條良子
仝田町七丁目二番地　石田粂子
仝氷川町九番地　石黒すま子
仝黒麥酒會社　石光さた子
四谷坂町九十番地　稻垣かつ子
牛込佐土原町一丁目三番地　犬養千代子
仝佐土原町二丁目一番地　伊藤富子
仝北山伏町四十番地　板倉藤子
仝五軒町四十二番地　伊藤こと子

小石川久堅町七十四番地　五十嵐つね子
小石川指ヶ谷町盲唖學校内　石川さの子
本郷區曙町十六番地　今村末子
仝曙町十六番地　岩永さと子
仝駒込二百三十二番地　今泉貞子
仝湯島天神町一丁目九十四番地　今田初子
下谷東黒門町九番地　犬養かつ子
深川須崎辨天町睦養舘　伊澤ろく子
仝練塀町四十三番地　井岡筆子

は ノ 部

麹町富士見町五丁目十七番地　馬場さだ子
仝富士見町三丁目一番地　早川春子
仝代官町一番地中央氣象臺　馬場きく子
仝麹町七丁目二十番地　橋口ちか子
仝紀尾井町三番地　橋本貞尾子
仝樞密院官舍　橋本ちせ子
神田南甲賀町八番地　原八重子
仝北甲賀町十番地　濱田捨子
日本橋北鞘町二番地　林つる子
芝三田綱町　侯爵夫人　蜂須賀隨子

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

芝車町萬濟向フ　樋口清子
麻布三軒家町二十二番地　橋元嘉代子
赤坂一ッ木町八十一番地　羽田三緒子
牛込南山伏町十番地　林　靜子
仝砂土原町一丁目一番地　原　みつ子
小石川小日向水道町九十二番地　服部繁子
仝竹早町七十八番地　林　竹子
仝新諏訪町十四番地　伴　よし子
仝林町四十四番地　濱　欽子
本郷丸山福山町十五番地　服部もと子
本郷金助町四十四番地　荻谷まさ子
下谷龍泉寺町百四十八番地　原　れい子
神田區猿樂町二番地　畑谷よね子

に ノ 部

麴町飯田町六丁目十六番地　西尾きやう子
京橋三十間堀三丁目十七番地　西　靜子
仝三十間堀二丁目九番地　新山きく子
赤坂氷川町一番地　新山雅樂子
牛込仲町十一番地　仁尾繁子
仝砂土原町三丁目十六番地　西川ふみ子

は ノ 部

麴町下六番町四十六番地　穗積まつ子
仝上六番町三十四番地　本田圭子
神田淡路町二丁目二番地　穗積さい子
京橋釆女町十二番地　堀越科子
麻布富士見町廿八番地　男爵夫人　本田うめ子
仝櫻田町壹番地　本間ゑん子
赤坂南町七丁目一番地青山寺院　本多てい子
四谷左門町四十番地　星野茂尾子
牛込拂方町九番地　穗積うた子
本郷西片町十番地にの二十二號　細木登美子
本郷六丁目二十九番地岡林方　本間いと子

へ ノ 部

牛込鷹匠町二丁目十二番地　別役ゆか子

と ノ 部

麴町土手三番町三十番地內田方　俊野いわ子
麴町元園町一丁目六番地　戶塚鐵子
仝大手町印刷局官舍　得能純子
日本橋藥研堀町二十九番地　富安てう子
麻布新網町一丁目三十番地　德田糸子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

赤坂氷川町五番地　徳富靜子

をノ部

麹町富士見町五丁目十七番地　長田しき子
仝富士見町五丁目二十番地　小倉すゑ子
仝三番町七十四番地　岡村靜江子
仝下二番町六十六番地　岡野幾子
仝元園町一丁目二十三番地　小山田かち子
仝五番町四番地　小鹿島筆子
南豊島郡千駄ヶ谷村　侯爵夫人　大山捨松子
神田北甲賀町十四番地　大澤とよ子
日本橋青物町三十三番地　岡野かく子
仝小網町四丁目五番地　大森八重子
仝矢ノ倉櫻井病院　沖ゑい子
仝濱町三丁目九番地看護婦會　大井田良子
京橋西紺屋町三十番地　岡崎きよ子
仝銀座三丁目二十二番地　生沼さと子
芝三田豊岡町五十九番地　大城高子
仝綱町壹番地　大野春子
仝三田三丁目六番地　大西靜子
仝公園十五號　大江小苗子

仝新櫻田町十九番地　太田龍子
仝松本町四十四番地　緒方芳子
麻布永坂町六十五番地　小倉すゝ子
仝仲町十一番地　大井上兼子
麻布市兵衛町一丁目十七番地　沖きよ子
仝表町二丁目十三番地　大久保きみ子
四谷右京町十三番地　尾崎糸子
牛込袋町廿五番地大生方　小野芳子
仝市ヶ谷河田町廿七番地　伯爵夫人　小笠原純子
仝市ヶ谷仲町五十番地　大西幾子
仝北山伏町四十一番地　沖野りう子
本郷東片町百三十一番地　大澤さく子
仝東片町百六十番地　緒方悦子
仝東片町百十九番地　大村安子
仝西片町十番地ろの十六號　岡澤和賀子
仝龍岡町二十五番地　岡山とし子
仝西片町十番地　岡野小枝子
下谷仲徒町三丁目廿七番地　岡田ひで子
仝仲徒町一丁目四番地　大森くめ子
仝練塀町四十三番地　太田幾子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

廣告

淺草新森田町二番地　大谷嘉知子
本所松代町一丁目十六番地　太田恒子

わノ部

麴町富士見町五丁目三十番地　和田垣つね子
日本橋茅場町四十九番地　渡邊よね子
仝濱町三丁目一番地　若林かね子
仝浪花町十四番地　渡邊たか子
芝三田一丁目三十五番地　渡邊みつ子
下谷二長町五十二番地　和田福子

かノ部

麴町飯田町六丁目　樫村榮子
仝富士見町六丁目二番地　男爵夫人　神山まさ子
仝富士見町四丁目四番地　河本かめ子
仝三番町八十番地　春日井清子
神田淡路町二丁目九番地　神田徳子
仝北甲賀町　金杉松子
日本橋兜町三番地　粕屋たけ子
仝蛎売町二丁目一番地　兼子きみ子
芝白金臺町一丁目七十一番地　河津歛子
仝三田二丁目二番地　笠原保子
仝田町九丁目四番地　加藤さく子
仝三田臺町一丁目卅八番地　加藤展子
麻布東町卄四番地　川上やす子
仝霞町一番地　門野駿子
仝狸穴町四番地　伯爵夫人　川村春子
赤坂南町六丁目三十五番地　加藤つる子
牛込東五軒町五十一番地　河上古代志子
仝新小川町三丁目十番地　男爵夫人　川田光子
小石川茗荷谷八十一番地　笠井梅野子
北豊島郡瀧之川村九十六番地　鹿島いね子
深川東大工町紡績會社　鹿嶋こと子
本郷本町二丁目四十七番地　鎌田ふじ子

よノ部

麴町中六番町二番地　與倉幹子
仝隼町五番地　吉澤まさ子
芝公園八號　吉田よし子
仝愛宕下町四丁目七番地　吉原かや子
赤坂仲の町十三番地　横山しん子
小石川竹早町七番地　横川下枝子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

本郷元町一丁目六番地　吉原よね子

たノ部

麹町一番町二十七番地　丹治春子
仝平河町六丁目十三番地　武富すみ子
仝永田町二丁目七番地　高島鶴子
神田今川小路一丁目五番地　田中こう子
仝北甲賀町十八番地　谷口清子
仝北甲賀町八番地　田村長子
仝鈴木町十六番地　高木鏁子
仝鈴木町十二番地　高田てる子
仝東紅梅町六番地　高瀬みき子
仝西紅梅町紅梅河岸十二號　高橋清子
仝末廣町十四番地　瀧田みつ子
日本橋本町二丁目十二番地　高橋こう子
京橋南鍋町二丁目四番地　立川貞子
仝南鍋町一丁目五番地　多田なを子
仝南金六町十四番地　高崎妙子
仝木挽町九丁目三十番地　高石とみ子
仝築地三丁目十五番地　高山らく子
芝公園廿五號地　田中てる子
仝公園十二號地三番安養院　竹内とき子
仝伊皿子町七十五番地　高山おい子
麻布霞町二十二番地　玉利和歌子
仝霞町一番地　玉利のぶ子
駒場農科大學構内　多々羅とよ子
赤坂南町六丁目百四十七番地　竹中春子
四谷鮫ヶ橋南町八十八番地　谷田とり子
牛込神樂町二丁目六番地　竹屋雅子
仝矢來町四番地　高田ふじ子
小石川江戸川町五番地　高山さよ子
仝關口臺町二十九番地　子爵夫人　田中いよ子
仝竹早町十九番地　武村千佐子
本郷西片町十番地　田口つる子

そノ部

芝巴町二十九番地　園田謹子
四谷仲町三十五番地　相馬睦子

つノ部

麹町富士見町五丁目九番地　佃梅子
神田猿樂町二十三番地　角田榮子
赤坂氷川町三番地　津田玉子

四谷植物御苑　堤松子
本郷弓町二丁目十四番地　辻さと子
仝東竹町二十九番地　土屋しん子
仝湯嶋新花町五十九番地　津田仲子
仝西片町十番地ろノ三號　坪井國子
仝西片町十番地はノ十三號　坪井あを子
下谷車坂町百七番地　築山孝子

ねノ部

下谷池端茅町二丁目四番地　根岸かな子

あノ部

麹町飯田町六丁目二十四番地　中村春子
仝一番町二番地　長崎多惠子
仝永田町　侯爵夫人　鍋島榮子
仝永田町二丁目七番地　長郷ちよ子
日本橋濱町二丁目看護婦會　永田てふ子
京橋元數寄屋町二丁目十一番地　長井ぬい子
麻布鳥居坂町二番地　鍋島業子
仝宮村町六十七番地　長與園子
仝本村町四十七番地　男爵夫人　南部隈子
赤坂青山南町六丁目十五番地　永沼貞子

下谷谷中天王寺町三十番地　中濱芳子
本所龜澤町二丁目三番地　中村たけ子
深川佐賀町二丁目二十三番地　長江しげ子
神田區錦町三丁目看護婦會　中山ふさ子
牛込市ヶ谷船河原町十四番地　奈良はな子

むノ部

芝區愛宕町傳染病研究所　村石よね子
芝三田綱町一番地　向山靜子
仝三田二丁目一番地　梅田くわ子
仝櫻川町十四番地六十號　室ともゑ子
四谷左門町八十八番地　村山つる子

うノ部

麹町三番町七十一番地　子爵夫人　裏松千代子
仝下六番町五十二番地　馬屋原久子
仝中六番町一番地　植村妙子
神田東紅梅町十三番地　内田すま子
京橋釆女町三十六番地　浦島てい子
芝高輪南町五十七番地　上野幾子
麻布市兵衛町二丁目四十一番地　上村きよ子
赤坂南町六丁目百四十七番地　内山訓子

廣告

の ノ 部

京橋中橋廣小路十六番地 野澤定江子
芝公園紅葉館 野邊地たき子
赤坂田町二丁目十五番地 野崎せい子
四谷信濃町 野崎わか子
小石川久堅町三十八番地 野村すみ子
仝水道町廿八番地 野澤郁子
本郷金助町十二番地 男爵夫人 野田すみ子

く ノ 部

神田區淡路町二丁目九番地 呉こと子
麹町飯田町 栗塚龍子
仝中六番町十二番地 草刈房子
芝三田一丁目三十七番地 伯爵夫人 黒田瀧子
小石川金富町三十五番地 久保田八重子
仝指ヶ谷町七番地 倉田香名子
本郷森川町一番地二百四號 呉みあ子
赤坂靈南坂町三十番地 黒田てつ子

や ノ 部

麹町壹番町廿七番地 安永きく子
仝三番町五十一番地 矢守つや子
仝上二番町三十八番地 山本多穗子
仝土手三番町廿四番地一號 柳川基礎子
上二番町三十三番地 矢島かぢ子
仝有樂町三丁目一番地 山田鶴子
仝南甲賀町五番地 山崎すゝ子
日本橋濱町三丁目一番地 山田染子
仝浪花町廿七番地 山本幸子
京橋西紺屋町十番地 山本みつ子
仝西紺屋町八番地 山本さと子
仝木挽町四丁目九番地 柳田きく子
麹町永田町二丁目五番地 山田登利子
芝三田一丁目四十一番地 子爵夫人 山地諒子
仝田町四丁目六番地 山田粂子
仝神谷町十八番地 山田ます子
仝巴町三十二番地 山際はる子
仝三田四國町十五番地 山口せき子
仝本芝三丁目十五番地 山岡せい子
赤坂表町二番地 矢野れつ子
牛込市ヶ谷本村町三十七番地 山上よし子
下谷竹町十九番地 山川二葉子

日本橋濱町二丁目九番地　山脇きよ子

ま ノ 部

神田北神保町十八番地　馬島園子
仝袋町十三番地　増田文子
仝鈴木町一番地　牧野きよ子
仝鍛冶町　松屋竹代子
芝三田一丁目二十八番地　伯爵夫人　松方政子
仝三田三丁目十四番地　松山信子
仝櫻川町九番地　牧かね子
仝公園九號の七　町田ゑい子
麻布材木町二十四番地　松岡光子
仝市兵衛町二丁目八十九番地　松平芳子
四谷大番町　牧野しん子
仝淀橋町七百二十四番地　馬渡玉子
小石川同心町十八番地　牧野英子
仝表町百〇九番地　松井とも子
本郷弓町一丁目十五番地　子爵夫人　松平鈴子
仝階町十六番地　松田章子
仝西片町十番地はの十號　眞水さた子
仝元富士町二番地　侯爵夫人　前田朗子

下谷仲徒町二丁目三十五番地　丸茂むね子
深川三好町二番地　松村鐘子
麴町平河町二丁目十五番地　松本うめ子
下谷龍泉寺町九十二番地　増田はな子

ふ ノ 部

麴町上六番町十五番地　福井まさ子
仝飯田町一丁目　舟曳みき子
京橋出雲町十六番地　福原とく子
芝櫻川町十四番地六十號　深和文子
麻布新網町二丁目十四番地　福地しつ子
仝本村町百五十四番地　藤田閒子
四谷新宿御料地　福羽禎子
牛込通寺町三十九番地　福原きよせ子
小石川西江戸川町七番地　福田きね子
本郷弓町二丁目　古市かう子
本郷巣鴨駕籠町四十六番地　深井みよ子

こ ノ 部

麴町七丁目二十番地　公爵夫人　近衛貞子
日本橋元大坂町十三番地　後藤はつ子
芝三田小山町一番地　河野せき子

廣告

仝高輪　伯爵夫人後藤雪子
仝明舟町十六番地　小森すが子
仝公園　小城とら子
赤坂南町三丁目五十一番地　厚東雪子
牛込南町十四番地　兒嶋直子
仝納戸町四十六番地　木塲小百合子
仝矢來町八番地　小柳安子
仝矢來町八番地　小柳美代野子
仝矢來町八番地　小柳睦子
小石川西江戸川町廿四番地　後藤幸子
本郷切通坂町八番地　小立爲子
仝本町二丁目四十七番地　後藤淺子
仝西片町十番地にノ二十八號　兒島悦子
淺草下平右門町十四番地　小林千代子

て ノ 部

小石川駒井町二番地　手塚ふく子
仝高田豊岡町二十四番地　寺田恒子

あ ノ 部

麹町上二番町三十九番地　有村ちよ子
仝元園町一丁目二十七番地　相原ひさ子
仝永田町一丁目二十九番地　渥見とみ子
仝元園町一丁目十七番地　有賀かつ子
神田北神保町八番地　阿部みち子
仝猿樂町二番地　有泉房子
仝裏猿樂町六番地　青山かう子
仝袋町十五番地　新井琴子
仝錦町一丁目二番地　天野群子
京橋水谷町三番地　赤澤とよ子
麻布本村町百八十七番地　芦田操子
京橋木挽町一丁目十五番地　安西あを子
仝南八丁堀一丁目二十八番地　綾井きん子
芝三田松坂町三十四番地　阿部優子
芝愛宕町二丁目傳染病研究所　朝日奈とら子
仝東町二十四番地　有馬幾子
仝明舟町十九番地　淺野かま子
仝公園八號ノ二　秋庭てる子
赤坂靈南坂町十八番地　有田あを子
仝淀橋町四百十五番地　粟屋武子
仝淀橋町三百二番地　粟屋榮子
牛込新小川町二丁目五番地　青戸さく子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

仝天神町七十一番地　青木すみ子
本郷元町二丁目四十七番地　秋間爲子
本郷本町二丁目四十七番地　秋間たい子
仝元町二丁目四十七番地秋間方　秋田春子
下谷上野山下町五番地　足立清子
仝池端茅町二丁目四番地根岸方　青木すゝ子

さノ部

麴町飯田町六丁目廿四番地　榊原あや子
仝三番町五十二番地　佐々木うめ子
仝中六番町十四番地　財部さわ子
仝平河町六丁目二十一番地　坂谷こと子
仝永田町官舍　侯爵夫人　西郷清子
神田北甲賀町十一番地　佐々木芳子
芝三田綱町十番地　齋藤はる子
仝車町三十五番地　鮫島峰子
仝葺手町十七番地　佐伯ちか子
仝田村町壹番地　澤とよ子
麻布鳥居町九番地　實吉れん子
仝簞笥町二十八番地　澤邊れん子
赤坂氷川町三十六番地　相良濱子

仝氷川町四十一番地　坂本房子
四谷塩町一丁目三十番地　榊實子
仝鮫ヶ橋町六十四番地　齋藤咲子
牛込細工町十一番地　澤村まさ子
本郷駒込二百三十二番地　佐藤靜子
仝駒込二百三十二番地　佐藤梅峰子
仝西片町十番地　榊臺子
仝森川町一番地六十四號　齋田とき子
牛込南山伏町十五番地黑須方　佐藤とめ子
下谷西黑門町十三番地　三田あさ子
仝下根岸四十四番地　佐藤らく子
仝仲徒町一丁目廿三番地　齋藤政代子

きノ部

麴町中六番町九番地　北澤信子
仝中六番町九番地　北澤菊子
京橋築地海軍大學校官舍　岸美代子
芝城山町壹番地　清浦とよ子
仝公園　子爵夫人　清岡かく子
仝公園八十四號の十四　木村ふみ子
駒場農科大學構内　喜多山つせ子

牛込市ヶ谷田町二丁目四十番地　木内磯路子
小石川表町五十六番地　木下つね子
小石川大和町八番地　木下角子
仝竹早町七十七番地　菊池みね子
本郷弓町一丁目十四番地　菊池たつ子
仝龍岡町二十一番地浦山方　菊池たけ子
下谷池之端仲町八番地　衣笠行子

み ノ 部

麴町飯田町三丁目十三番地子爵夫人　三好梅子
仝富士見町五丁目十番地　三井晴子
仝五番町二番地　三浦とき子
神田北神保町七番地　三井曉子
仝中猿樂町二番地　三守ます子
仝北甲賀町三番地　三浦敎子
仝雉子町三十番地　宮本樂子
日本橋村松町三十番地　宮田鷄子
芝區森元町二丁目二十二番地　宮城島欽子
赤坂龍土町五番地　三島わか子
四谷左門町六十一番地　三宅みち子
小石川竹早町八十一番地　三宅藤子
仝竹早町八十二番地　三浦せむ子
淺草向柳原町一丁目十七番地　宮下とし子
仝森川町一番地表北裏七十七號　南なか子
本所相生町四丁目八番地　三穗のふ子
深川伊勢崎町四十八番地　宮本幸子

し ノ 部

麴町富士見町二丁目四十二番地侯爵夫人　四條春子
仝五番町十二番地　進とし子
芝三田綱町十一番地　志岐千代子
赤坂檜町十四番地　志岐榮子
仝城山町九番地　清水とし子
仝巴町三十四番地　篠原さた子
仝愛宕町二丁目十四番地　白川かす子
仝新堀町三十一番地　下村ちと子
麻布山元町五十八番地　神宮司富子
赤坂青山南町二丁目廿六番地　進みち子
牛込東五軒町十三番地　島崎とく子
小石川小日向臺町一丁目廿一番地　志水房子
本郷弓町一丁目二十九番地　清水ふき子

本所若宮町五十四番地　志賀かま子
本鄉曙町十六番地飯澤方　清水梅子

ひノ部

麴町飯田町四丁目十八番地　弘田登子
仝三番町十二番地　廣瀬りき子
仝下二番町六十九番地　日高りき子
仝永田町二丁目三十一番地　秀島つね子
仝有樂町三丁目一番地　平田よし子
日本橋住吉町二十二番地　樋口八重子
芝榮町十三番地　伯爵夫人　久松貞子
本鄉曙町十六番地　久原秋子

もノ部

日本橋濱町二丁目九番地看護婦會　森川かめ子
京橋南小田原町四丁目一番地　森岡きみ子
赤坂南町五丁目五十番地　本尾しけ子
牛込上宮比町五番地　森安かた子
芝兼房町十番地　森やそ子
仝小山町六番地　森その子

せノ部

麴町中六番町四十八番地　千田蘇茂子
仝上六番町三十五番地　千田米子
麻布一本松廿三番地　關郁子
牛込中里町廿七番地　瀬川雪子

すノ部

麴町飯田町二丁目五十三番地　鈴木信子
赤坂仲ノ町十八番地　鈴木照子
神田錦町三丁目二番地　鈴木政子
京橋西紺屋町八番地看護婦會　駿河仲子
芝三田小山町一番地　杉いち子
仝田村町十六番地　島崎たけ子
小石川春日町四十九番地　須田いそ子
下谷練塀町十二番地　須田すゝ子
本所柳島町廿六番地　鈴木喜代子
南葛飾郡寺島村千七百五十八番地　須藤鳳子

（以下次號）

醫學士　三島通良先生校
保育協會主幹　栗原政藏氏著

保育叢譚 ひたち帶

正價拾錢
郵税四錢

此の書は松平直亮伯、德川達孝伯、大島圭介殿、藤田高之殿、古市公威殿、加東德三殿、逸見勝誠殿、佐治實然殿、荒井泰治殿、楠田謙藏殿等の贊助協力に依て出版したる者にして元、賣物に非ざれども今第二卷を發刊するに際し殘本餘り有るを以て二百部を限り同好の人に賣却すれば御望の方は至急御申越あれ

自評の手前味噌は鹹しと云の恐あれば敢て喃々せざれば價値の有無は左の公評に察せよ（但し二卷を御望の方は豫約あれ）

諸新聞ノ批評

醫學士三島通良氏の校閲する所に係る專ら小兒保育の譚を錄せるもの。第一章に「イハタ」帶考。第二章に西醫の腹帶說。第三章に「イハタ」帶と神佛の關係を記して詳を盡せり云々

東京日々新聞

本書は妊婦の攝生法を講ずる者にして本卷には先づ腹帶の沿革、利害、應用、改良等を記のせり。次卷には邪婬を戒め。三卷には妊婦の攝生法、死產の豫防法等を論ぜんとす。第一卷の腹帶は遠く上代に入り東西に通じ說明、簡にして要を得たるを覺ゆ

報知新聞

本書は妊婦の腰腹に纏ふ「ヒタチ」帶の事に就て其の效能、用法等を精細に講說したる者にて妊婦は勿論、下科醫、產婆、看護婦等の一讀すべき好書なり

讀賣新聞

東京市小石川區指ヶ谷町
七十六番地字御殿山
保育協會

●東京府下は端書にて御申越し有れば直に配達す故に送金は郵税の煩ひを掛ず

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治二十一年二月二十八日内務省許可

私立大日本婦人衛生會規則

第一條　凡本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持するの方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり

第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置く

第三條　本會の會員たらんと欲する者は身分の尊卑を問はず何人にても入會することを得

第四條　會員たらんと欲する者は族籍住所姓名を記し本會事務所へ申込ある可し

但事務所は下谷區練塀町四十三番地に置く

第五條　本會々員を分て終身會員特別會員通常會員の三類とし共に會費金を納むる者とす

但終身會員は一時に金拾圓以上を納め特別會員は一年金二圓四拾錢以上を納め通常會員は同金壹圓二拾錢を納むる者とす尤も會員中書生及其他事故ある者は唯雜誌料として同六拾錢を納めしむ

第六條　男子にして本會の主義を賛成する者は之を賛成員とす尤も會費は本會員に同し

但本會に功勞ある者は役員の協議を以て終身賛成會員（無會費）とすると有る可し

第七條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉す推戴員は皇族の御息所等に之を申請するものとす

第八條　本會は左の役員を置く

會長一名　副會長一名　幹事七名　評議員二十名　書記若干名

第九條　會長副會長及幹事評議員は會員の投票を以て之を撰擧し書記は幹事の推撰により會長之を命ず

但書記は都合により會員外の婦人又は男子に托することあるべし

第十條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し又は其代理をなし幹事は會長の命を受けて會務を處理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命に從て諸記錄及雜務を掌る

但幹事の分課を設けて　第一　會計　第二　編輯出版　第三　庶務とす

第十一條　會長の見込を以て右役員外に會員中より臨時に指名委員を置くことあるべし

第十二條　會長副會長及幹事評議員の任期は一年とす尤も再撰するも妨げなし

第十三條　會長副會長及幹事評議員は無給料とし書記は相當の報酬を給す

明治廿九年九月卅日印刷
明治廿九年十月一日發行

發行所　東京下谷區練塀町四十三番地　大日本私立婦人衛生會
編輯兼發行者　東京牛込區矢來町三番地　田中徳三郎
印刷者　同神田區小柳町十三番地　小高良造
印刷所　同神田旅籠町貳丁目拾一番地　廣業館

明治廿六年四月四日遞信省認可第二金曜日發行

（定價金拾錢）